

景観設計と営業の取り組み

A SCENE DESIGN AND CONSTRUCTION OF HUMAN RELATIONS

田辺 充浩¹⁾
Mitsuhiro Tanabe

谷岸 淳一¹⁾
Jun'ichi Tanigishi

1. まえがき

民間構造物においては、施主の思い入れが最優先され、機能以上に外観を重視する傾向がある。ともするとデコレーションばかりに覆われた張りぼて造形物に陥ってしまう事も少なくない。

2. 景観と構造体の調和

2.1 景観設計

施主がイメージする完成形状を提示する。昨今のパソコン環境では、眼前でのプレゼンテーションだけでなく、修整や追加もその場で思いのままである。インターネット環境にあるならば、新しい部品や商品を即時に選択することも可能である。施主から如何なる要求事項があるのか、その場で積み木細工のように組立てながら計画を進めていくことが可能となった。



2.2 営業戦略

施主の希望を優先させると、建設費用もさることながら構造物としての安定性や、使用する立場から見た安全性などを見逃してしまう。営業としての戦略は、完成系が施主の要求事項を満足するだけでなく、利用する側から見た使い易さを同時に展開する事が必要となる。

すなわち、イメージ作りはパソコン上でどのような形にも作りだす事が可能になっているからこそ、利用のしやすさに始まる構造物の目的と、施主が思い描く造形物としての姿を融和させることにある。

2.3 技術との調和

機能優先の都市内高架道路の側面に、環境対策のために着色されたり、模様が描かれたりする事例がある。

構造物と街が共存するためには、まだ長い時間が必要なのかも知れない。

着工までに施主と様々な意見の交換やイメージの検討を行うことに始まり、構造物が外観を優しく支えていく段階に至るまでに要した努力は、ささやかな吐息にも似た架設現場との触れ合いであったのかも知れない。

3. 完成系の展望

完成前と竣工時で、イメージの異なりが生じてしまうと取り返しのつかない事態となる。構造物だけでなく、それが育まれる自然環境との関係も見渡すことが必要であり、四季を通じた立ち居振る舞いを施主と共有する時間が、最も要求される事項となるのではないだろうか。



4. あとがき

真木人道橋（山梨県大月市旅館亭建設）のイメージを借用したが、本文の内容とは直接関係はない。

本橋の計画、架設に当たり、ご指導いただいた（株）JFE シビル、ならびにご協力いただいた施主や施工関係各位に深謝する次第である。

1) 営業グループ 市場開発部